



行政視察報告書


令和1年9月5日

笠岡市議会議長 殿

(出張者) 徳清会

議員 栗尾 順三 

議員 森岡 聰子 

議員 馬越 裕正 

議員 仁科 文秀 

公明党の斎藤一信議員、大本邦光議員と下記のとおり行政視察を実施したのでその結果を報告します。

記

行程

8月22日 13時30分～14時45分 福岡市「イノシシ被害対策に特化したイノシシ対策課の取り組み」について

8月23日 10時～11時30分 佐賀市「AIチャットボット ここねちゃん」について

15時～16時10分 諫早市「スポーツ振興によるまちづくり」について

8月24日 10時～11時30分 佐賀市 NPO 法人ユマニテさが「わいわいコンテナ」について

【1】福岡市

住 所	福岡市中央区天神1-8-1
電 話	092-711-4743
視察案件	イノシシ被害対策に特化したイノシシ対策課の取り組み
期 日	令和1年8月22日(13時30分～14時45分)
応 対 者	別紙名刺のとおり
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	福岡市議会

概 要	<p>【視察目的】</p> <p>笠岡市でも被害が増えているイノシシ対策について、福岡市の取り組みを聞き、生かせることはないか確認し、参考したい。</p>
	<p>●この4月から、イノシシによる人的被害を防ごうと、集中捕獲や生息調査を専従で担当する担当課を置き、課長以下3人体制でスタートした。課長からお話を聞いた。周辺部の田んぼや畑が荒らされることはあったが、昨年10月に、市街地で通勤途中の男性がイノシシに襲われ、大けがをする事件が発生、その後も原付バイクにイノシシがぶつかり、乗っていた人が骨折するなどが重なったことから、イノシシ対策をさらに本格的にすることになった。</p> <p>福岡市のような大都市で と思うが、今や街中にも堂々とイノシシが出没する時代になっている。</p> <p>●福岡市では、対策費として3697万円を計上。毎年1500頭前後捕獲しているが、これに加え離島や山間部で集中捕獲作戦を実施している。目標頭数は2000頭。さらに、有害鳥獣対策に詳しい民間業者に生息調査を委託し、効果的な捕獲や対応策を検討している。</p> <p>●捕獲体制</p> <p>猟友会は3団体294人、うちイノシシ担当は49人。日ごろから、常に見回りをしていただくようにしている。福岡市の予算は3697万円だが、国や県からの予算が別途ある。</p> <p>●印象に残ったこと</p> <p>山間部なら銃が使えるが、福岡市のような市街地が多いところでは使えない。その代わりに、「箱わな」を増設していて、国の補助事業として150個そのほかには、農家が自分で買ったものもあるという。行政、猟友会、地域が協力して、捕まえようという意識が高い。「箱わな」の設置は有効だという。</p> <p>●見回りの省力化を図るために、IoT機器を使用した実証実験を計画しているほか（予算150万円）、隣接する糸島市とも情報共有して活動していくこととしている。福岡市には、能古島、志賀島があり、笠岡諸島とも似たところがある。この両島で年間500頭を捕獲しており、箱わなの効果は大きい。</p>
	<p>視察資料 視察状況写真 名刺</p>

【2】佐賀市

住 所	佐賀市栄町1-1
電 話	0952-40-7310
視察案件	AIチャットボット ここねちゃん
期 日	令和1年8月23日(10時~11時30分)
応 対 者	別紙名刺の通り
視察状況	別紙写真の通り
訪問施設	佐賀市議会
概 要	<p>【視察目的】</p> <p>行政の業務量はこれから減っていくことは考えにくい。一方で働き方改革が求められるなかで、市民のニーズを満たすためのAIの活用が、笠岡市でも可能なのか、その効果はどうかを確認する。</p> <p>●この取り組みは、佐賀市でも始めたばかりで、効果はこれから。佐賀市へ来られる視察の7割はこのテーマであると言われていた。業務量や市民のニーズは増え、多様化しているが、逆に職員数は1500人から1400人に減っており、業務改善を進めようと考えたところへ、佐賀市内のシステム開発業者(木村情報技術株式会社)との話が進んだということのようだった。</p> <p>●高松市で採用している「保育施設AI入所調整システム」では、入所の調整に大幅な時間短縮ができ、職員の作業負担の短縮や受け入れ準備期間の確保ができる。人がやれば1か月かかる作業が50秒でできるとのこと。単純作業をいかにAIで対応させたり、省力化できるか。</p> <p>●佐賀市で取り組んでいるなかでは、AIチャットボットの取り組みが参考になった。人とAIが対話形式で文字情報をやり取りし、市民は24時間365日使えるというメリットがある。昨年5月から実証実験を開始し、導入している。対象分野は、保険年金課業務、住民票届け出等、子育て分野など。「国保に加入しなければいけない理由は」とか「改正子ども子育て支援法について知りたい」など、まず、担当課で職員が300程度のQ&Aを用意し、それが蓄積されAIと市民、職員とのやり取りのなかで1000以上のQ&Aになっているという。市民からの問い合わせにかなりスムーズに対応ができています。月1回メンテナンスを各部署単位でウェブ上の画面でおこなう。7月末までに4万件の利用があったということで好調。</p> <p>●課題</p> <p>しかし、国の制度が変わるなど、変化が大きい分野では使いにくいし、このシステムを使うことで市民の満足度が上がっているかが測りにくいという。</p>
	添付書類

【3】諫早市

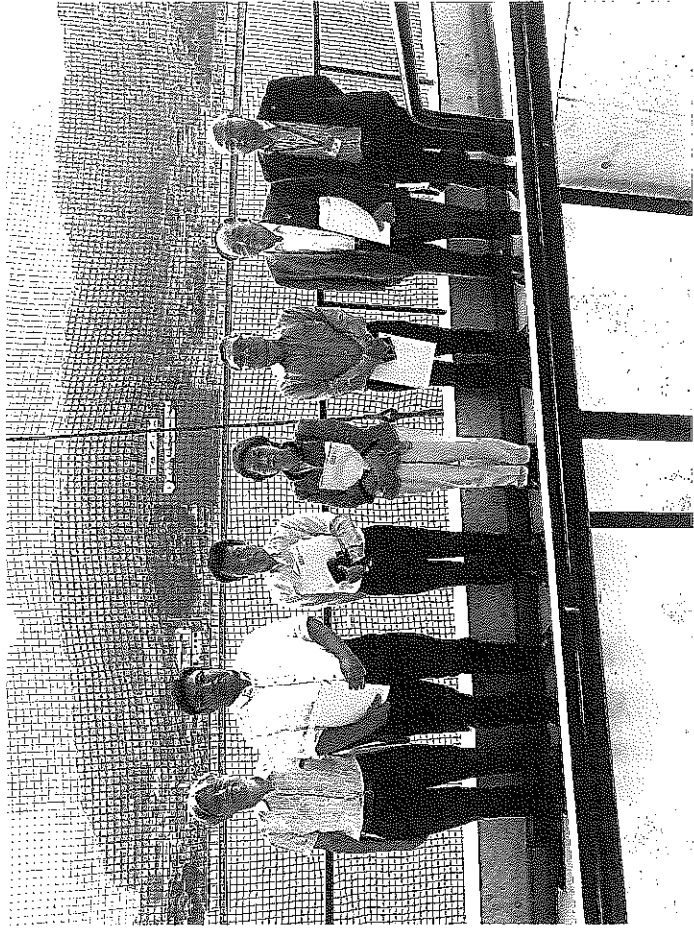
住 所	諫早市東小路町7-1
電 話	0957-22-1500
視察案件	スポーツ振興によるまちづくり
期 日	令和1年8月23日(15時~16時10分)
応 対 者	別紙名刺の通り
視察状況	別紙写真の通り
訪問施設	久山港スポーツ施設・野球場
概 要	<p>【視察目的】</p> <p>特色あるまちづくりを進める諫早市の取り組みを知る。スポーツ振興に力を入れることのメリットを確認し、笠岡市での可能性を探る。</p>
	<p>●ここ、久山港は大村湾に面しており、平成6年度から20年度にかけて、スポーツレクレーション用地として整備されている。整備事業費37億円。諫早市として、市民のスポーツ振興、スポーツのまち諫早、人口増もめざしているという。両翼100m、中堅122mで人工芝の立派な野球場、同じ広さで天然芝の第2野球場、人工芝でサッカー、ラグビーができ、フットサルが4面とれる施設など、うらやましいばかりの施設であった。近くに甲子園でも活躍している創成館高校、長崎日大高校があり、よけいに野球熱が上がっている。平日でも10人以上の若者に利用されているスケートボード場もある。</p>
	<p>●年間を通して県外・県内の大学なども合宿で使っており、平成31年の2月~3月の期間だけでも、4団体322人が使用。宿泊も計34泊、3096人。「いこいの村長崎」や市内のホテルなどが宿泊に利用されている。諫早市からは1人1泊1000円の補助が出る。30年度は予算が足らずに補正を組んでいる。市の商工部も「スポーツのまち諫早」のPRに数百万円の予算組み。</p>
	<p>●こうした整備ができるのは、合併特例債の力が大きい。説明を聞くと、用地取得費を入れて約53億円かかったうち、合併特例債が48億円、スポーツ振興くじ助成金などが約1億5千万円。一般財源は3億3千万円程度。笠岡市では、すぐにまねができない。笠岡市としての可能性は低い。</p> <p>●しかし、スポーツ振興にかける意気込みは十分に感じられる、熱意にあふれた説明を受ける視察になった。</p>
添付書類	視察資料、視察状況写真、名刺

【4】佐賀市

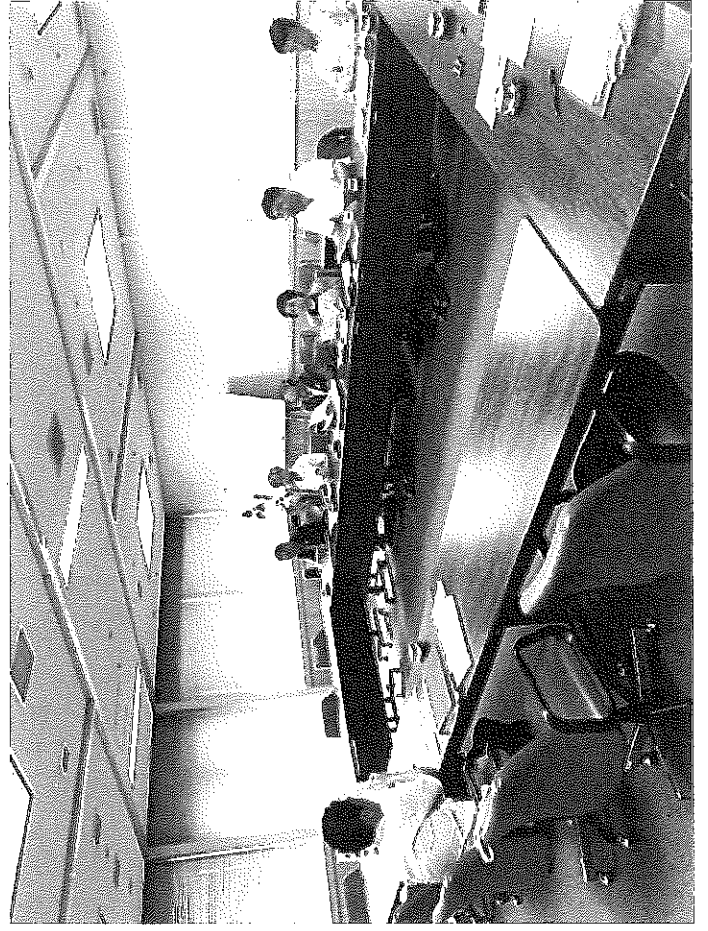
住 所	佐賀市白山二丁目7-1 エスプラッツ2F
電 話	0952-22-7340
視察案件	NPO法人ユマニテさがおこなう 「わいわいコンテナ」事業
期 日	令和1年8月24日（10時～11時30分）
応 対 者	別紙名刺の通り
視察状況	別紙写真の通り
訪問施設	NPO法人ユマニテさが の事務所 ----- 近くの中心市街地
概 要	<p>【視察目的】</p> <p>NPO法人が取り組むまちづくりの新たな動き、街なか再生計画について知り、笠岡市で生かせることはないか、できることはないかを考える。</p>
	<p>●佐賀市では、地下の値下がりとともに中心市街地へマンションができ、マンション住民が増えている。福岡などへの通勤層もいて、定住人口は増えている。中心市街地の通行量は減っているが、大型スーパーの進出があるものの空き店舗率はやや減少している。そんなにさびれてはいない印象である。</p>
	<p>●佐賀市中心市街地活性化基本計画では、「住む人を増やす、来る人を増やす、街を歩く人を増やす」という街なか再生計画を立てている。その中心をなすが、NPO法人ユマニテさが。ユマニテとはフランス語でヒューマニティ、つまり、人間らしさ、人間性を表すことば。人を基本とした街づくりをめざし、ヒト・モノ・カネだけではなく、ココロと情報を中心市街地に集めるとしている。</p>
	<p>●空き店舗対策は、笠岡でも始めているが、家賃を商業者育成事業としてやや高めに設定し本気で取り組んだら、かなり安くするなどの工夫があるという。コミュニケーションの活性化を意図した街なか賑わいづくり事業では、書道部の実績のある佐賀北高校に協力してもらったり、「えびすさま」が日本一多い佐賀にちなみ、サッポロビールの協力を得て、エビスビールを理屈抜きに飲む、楽しい行事も組んでいる。そのほかに、ブックマルシェ（古本市）などをおこなう。</p> <p>●少子化高齢化の進行、中心市街地の空洞化は、全国共通の悩み。既存の資源を最大限活用して、街づくりをおこなう。市長の諮問機関として50人会議があったが、そのなかで口も出さず、からだも動かさずという10人規模グループが核になる。郊外にできる予定だったハローワークをまず街なかにもってきた、NHKももってきた。人が集まる、必要な施設を街なかを集めるようにした。また、写真にあるように、地元佐賀大学のサテライトもある。</p>

概 要	<p>●私が一番驚いたこと。</p> <p>地域資源が何かないと探していたら、コンテナがあったということから、空き地にコンテナをいくつか置いて、そこで物品販売やイベントをしている。コンテナは、間口が広く中が良く見えることが特徴で、だれでもがのぞけたり、しかも入りやすい。交流コンテナ、チャレンジコンテナ、読書コンテナ、トイレコンテナなど、年間リースで20万円とのこと。</p>
	<p>●多くの人たちのたまり場になっており、回遊性もあって散策もできる。笠岡でも若い人たちから高齢者までが楽しめて、買物もできる商店街づくりのために、コンテナの活用も一例だと思った。</p> <p>●運営は、佐賀市からNPOに委託されている。常務理事の伊豆さんは中小企業診断士のかたわら、ここで働いている。事務所は4人体制、店舗を含め9人、市からの委託金は1200万円。店舗からの売り上げと合わせて運営している。</p> <p>●かつて鍋島藩であった歴史を感じさせる街並み、特有のうるおいのある風景を創出しながら、いい感じで運営がされている。やり始めて7年とまだまだこれからだが、参考になる要素があるように感じられた。一度、頭のなかを整理してみたい。</p>
添付書類	視察資料、視察状況写真、名刺

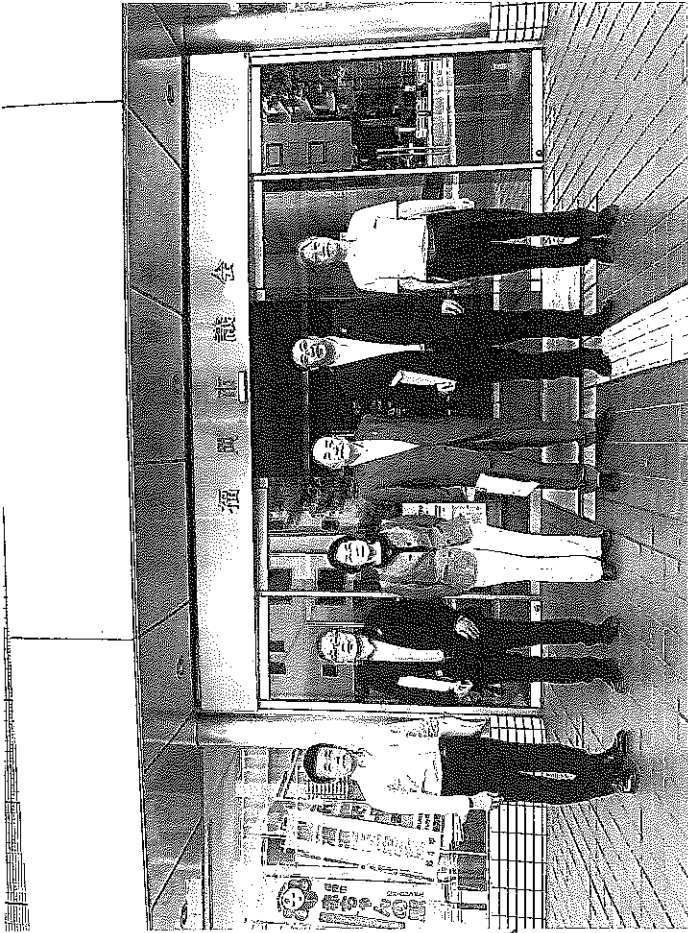
8月20日課外市不之校報



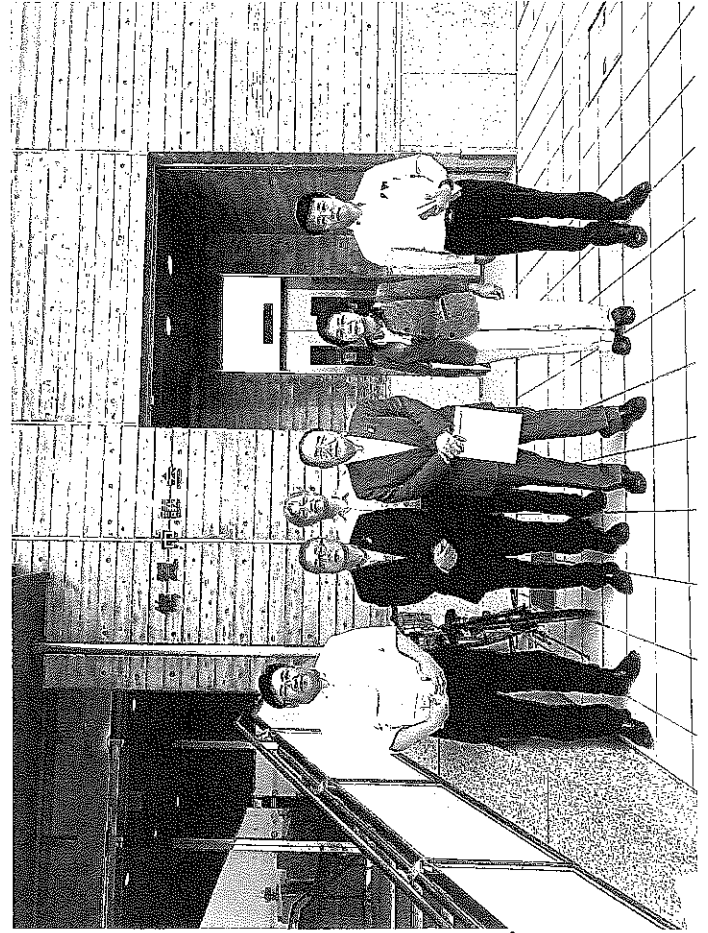
8月20日福同市議



8月22日福同市議



8月22日信理市議





8月24日 八中法人事務所



8月24日 市街地9施設

8月24日市街地の様子

